

# 回会報

159号

新日本美術協会

## 平成二十九年年度総会開催される

六月二十四日(土)午後、東京日展会館2Fに於いて定期総会が開催された。総会に先立ち委員会が開かれ、議事運営の事前確認が行われた。

鈴木事務局長から本日現在の在籍人員の内訳が示された。会員193名、特別会員1名、名誉会員6名、永年会員(仮称、総会決議事項)5名、総計205名である。総会成立に必要な人数は会員出席者29名と委任状88名で確保されている旨報告されました。

総会は午後二時に開会。総合同会に富岡委員が指名され、議長には、増野委員が選出され、以降議長進行に移り、書記に河野委員、議事録署名人に永野委員が指名され、森屋代表の挨拶、総会成立人数再確認後審議に入った。

**第一号議案** 平成二十八年年度事業報告及び収支決算報告並びに財産目録の承認を求める件では事業報告を鈴木事務局長が、収支決算及び財産目録の報告を小宮山委員が監査報告を永野委員が行い、活発な審議結果承認されました。

質問事項として、29年度年会費前受け金が予算額と実績額の差が大きいこと、その行方が不明瞭との指摘があった。この件は伝統的表現で処理してきた由来があり今まで問題視されなかった。さしあたり当年予算書の前年度繰越金備考欄に前年度の前受け金が含まれていることを各々手書き付記する事で了解されました。

**第二号議案** 平成二十九年年度事業計画案、収支予算案の承認を求める件では前者を鈴木事務局長が後者を小宮山委員が説明し承認されました。

**第三号議案** 永年会員に関わる会則一部改定案の承認を求める件では、鈴木事務局長から本会に永年在籍し尊敬の念を示す称号であり、委員会推薦、本人の了承を得る等の趣旨説明がなされ

事務局  
横浜市港南区港南台  
1-39-5  
鈴木忠義方  
Tel.045-832-0504

編集委員  
小高峯夫  
富岡ネム  
大石 亨  
四方公子  
早田美智子

原稿常時募集  
次号平成29年11月予定

原案通り承認されました。

## 第四十一回展実行委員長をお受けして

増野 喬

「指名により実行委員長をお受けしました。節目の四十回展を終え、四十一回展は新たなスタートです。衆・参議長賞が加わり充実した展覧会が期待されます。」

さて、当会は会員の高齢化出品数の減少傾向にあります。この傾向は各美術団体の共通の悩みでもあります。会員増対策の一つに一般応募者の増加があります。一般応募者の増加は将来の会員確保の不可欠な条件です。アンケートによれば会員からの手渡しによる勧誘が一番有効とありました。なにとぞ会員の身近な方々への出品依頼をぜひともお願いします。

審査についてはアンケートにお手盛りではとの意見がありました。今回大きな賞が加わりました。誤解が生じない様に今まで以上に公正・公平な審査をお願い致します。

アンケートにPOPな作品にスポットライトを、との意見がありました。新たなジャンルの作品、作家の発掘も必要です。若い人の公募展離れの要因は色々ありますが旧来の古い体質や慣行にイヤガがさしているのかも知れません。

展示については四十回展でも様々な討議がされ改善されていますが、さらに来観者には見やすく、作品は一層映える様に心掛けたい。会場の雰囲気盛り上げる為にイベントが計画されています。工芸の山崎委員のワークショップ、土屋委員の講演、恒例のギャラリートーク等です。

事前PRと皆様方の参加をお願いします。会員と一般応募者、新人との交流も新日美ファンを増加に繋がると思っています。又、会員同士の交流

も絆を深めるでしょう。四十一回展には大きな賞が加わりました。中堅の団体としては類を見ないものです。賞に相応しい四十一回展になる様皆様方の力作をお待ちしています。

## 新委員の紹介



石村空也(絵画)  
埼玉東支部事務局

この度は、洋画部門から委員として委嘱いただきました。石村空也と申します。埼玉東支部に所属し、事務局を担当しております。

今年4月初旬に事務局長の鈴木様より、全く突然に委員の内示を受け、驚き、困惑をいたしました。その後、今年度最初の委員会で、森屋代表から委嘱状を頂きました。委員という責任ある役割を果たせるのか、キャリアの少ない私には、正直いって、とても不安です。

私は、油彩を始めたのは、七年前の66歳の時です。妻が他界し、引き籠っていた時期に、友人S氏から油彩を勧められたのが、切っ掛けです。その頃、友人S氏は、新日美の会員で、東京都美術館で一緒に鑑賞した、楽しい思い出があります。

今は故人となられたS氏は、特選などの受賞も多く、羨ましく憧れの存在でした。私は、油彩を始めて4年目に、一念発起して、第37回展に応募しました。当時は、入選できるのか、落選なのか、気をもみました。結果は、入選して賞をいただきました。あの時の感動は、今も忘れません。

その後、38回、39回、40回と、計4回の出展をしました。私にはその程度のキャリアしかありません。そんな私が委員ということで大変恐縮しています。とは言っても、委員を委嘱されたからには、まずは、本展の運営に、ご苦労されている諸先輩方に、少しでも協力して頑張っていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



高岩正男(絵画)  
神奈川支部長

四月に、委員および神奈川支部長の委嘱を受けました。その後、委員会では皆さんの真摯な議論を伺い、じわじわとその役割の重さを感じています。また分からないことも多いですが、皆さんに教えて頂きながら、少しでも役割を果たせるよう努めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひ致します。

私は約十年前に退職し、毎日が日曜日となるにあたり、大学時代にやっていた弓道を再開し、小さい時から好きだった絵にも取り組むこととしました。絵を始めるに際し、「我流」の為、一向に上達しない「ゴルフ」の反省から、まず「基本」を学ぼうと考え、武蔵野美術大学(ムサビ)通信)に入りました。

卒業して間もなく、元の職場のOB向け会報誌に、六十の手習いで美大を卒業」と題する私の記事が掲載されて、正に後に引けなくなり、より前向きに絵に取り組むようになりました。

新日美に入会したのは、ムサビ神奈川支部OBの懇親会で増野喬さん(現委員)からお誘いを受けたのが切っ掛けでした。そして平成23年、新日美展に応募、入選しました。私にとつて上野の美術館に作品が展示されるのは夢のようなことでした。この時以降、秋の新日美展には、中学時代の先生、高校・大学の友人、ムサビの仲間、元職場の同僚・上司の方々など多くの方に鑑賞に来て頂いており、学生時代の友人からは率直な、厳しい批評が毎回寄せられています。うれしい限りです。

この間、近所に新設された2か所の老人ホームに作品を寄贈して大変喜ばれました。絵を始めるときには想像もしていなかったことで、絵を描いていてよかったですと強く感じています。なお、4ページに神奈川支部展を終えて」と題する記事も掲載されています。併せて、一読頂けたら幸いです。